

成田空港周辺市町議会連絡協議会
国・県などに決議書を提出

成田国際空港の機能充実と地域の均衡ある振興・発展とともに住民福祉の向上を願い、決議書を7月28日に県空港地域振興課・成田国際空港(株)、8月5日に国土交通省・香取警察署へ提出しました。

決議書は、1.環境対策・地域共生策について、2.成田空港の機能拡充について、3.国際線ネットワークの確保について、4.アクセス・道路整備について、5.過激派暴力集団によるテロ・ゲリラ行為の排除について要望するものです。



芝山町議会・多古町議会連絡協議会

圏央道の早期完成、休憩施設設置を要望

8月3日、多古町、芝山町の議会議長、町長は国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所長に対して、地域住民からの意見をまとめた「意見書」並びに「圏央道(大栄・横芝間)の早期着工等に関する決議書」を提出し、建設促進と地域交流拠点との接続が可能となる休憩施設の設置を強く要望しました。



町民と歩む議会の実現を研修

8月29日、芝山町役場を会場に芝山町議会・多古町議会連絡協議会で研修会を行いました。研修は江藤俊昭氏(山梨学院大学法学部教授)による『議会改革の実践手法』について』と題した講演で、議員と住民の理想的な連携について考える機会となりました。



香取郡市町議会議員研修大会

地域資源を活かした町づくりを

8月26日、多古町コミュニティプラザを会場に香取郡市町議会議長会主催の研修大会が開催されました。林 幹雄衆議院議員をはじめ伊藤和男、戸村勝幸両県議会議員、伊藤茂明町議会議員、自治功労者表彰が行われた後、研修会が行われました。

研修は、川合靖洋氏(内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局次長(内閣審議官))による「地方創生について」と題した講演で、地方創生をめぐる現状と地方創生の本格展開(人口減少の歯止め、東京一極集中の是正、地域経済の活性化)といった「地方創生」の基本的な考えを学びました。



【伊藤正美さん・輝さん】
飯笹在住、53歳。家族4人と研修生2人で大和芋を中心とした野菜を栽培している。平成27年7月には法人化し、後継者である輝さん(24歳)とともに品質の高い大和芋作りを励んでいる。



俺らの商売相手は
都内有名デパート、料亭!

—プライドをもって作る「多古町産やまと芋」

～大和芋生産者 伊藤 正美 さん・輝 さん

多古町にお住まいの「その道」をひた走る方々にお話しを伺ってみると、そこには新しいまちづくりや町を元気にするヒントが...!



Aは収穫の2～3%しかなく、ほぼ全てが都内百貨店へ

輝さん、どうして農業を継ぐう?
親父の背中を見てきてと言ったらカッコいいですけど、初任給15万円で勤めるなら月給30万円で家の農業やった方がいいかなあって。(笑)

専業農家の収入は安定している?
大和芋の場合、品質の高いものを作れば高く売れる。高収入が見込めるんです。計画的な出荷で収入も安定しています。

栽培技術や品質管理の高さが求められるんですよね?
「多古町産やまと芋」の市場評価の高さを知っていますか?京浜市場シェアNo.1。大田市場での評価が高いから高品質のものは都内へ。買手は有名デパート、料亭。だから町内では等級が上のは店に並ばない。地産地消、とはいかないんですよ。農家も商売、質の高いものを作って、評価の高い市場に出し、高く売る!高い収入が見込める仕事だから輝も後を継ぐ気にもなったのかな。(笑)

まさに「多古町産やまと芋」のブランド力ですね。
大和芋部会みんなが生産過程の管理、品質管理などルールを守り、生産者自らが生産物の検査をすることで品質向上を目指してるんです。プライドもってね!!

～interviewer's eye～

「初任給30万円、通勤時間0分、職場の人間関係への不安なし、休暇も取れる」仕事として「魅力」ありだろう。近頃、30歳を過ぎ動機をやめて農家を継ぐ人がでてきた。サラリーマンより好条件ということか。大和芋の味の良さを決める土壌に恵まれた多古町だが、確立された市場評価は先人達の努力によるものだ。それを理解しているからこそ、更なる品質向上に取り組んでいる。大和芋農家は顔を合わせれば大和芋の話ばかりする。何ともマニアックな生産者だ。バックセンターによって作業が軽減されれば、今現役に頑張っている人達が続けられる年数も伸びる。安定した出荷量は「多古町産やまと芋」のブランド力アップにつながる。高いブランド力が高収入を生み、後継者を呼び戻すかもしれない。農家が減っていく中、町の農業を活性化するには伊藤さん父子のような担い手の活躍が期待されるどころだ。(鶴澤 茂 委員)

今後目指す農業経営は?
後継者ができたので、機械などの設備投資も考えています。そうすれば規模も拡大できますから。

後継者、新規就農者を育てるために望む支援は?
大和芋の場合、種芋や消毒剤などの費用だけでなく、芋を洗う大量の水、真空パックの機材も必要なので、お金も人手もかかります。安定した出荷のために共同で洗浄、パックするバックセンターがあれば今より経営規模を大きくもできます。

安定した高収入が見込めれば後継者も増えるのではないかな。

大田市場...青果の取り扱い規模は日本一。ここでの決定価格が日本全国の市場の指標となっている。